

陸軍ニュース：中国軍北部戦区の戦備状況

漢和防務評論 20171004(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中朝国境に接する中国軍北部戦区は状況の緊迫を受けて戦備態勢をアップしている、と思われます。
最近、中国のネット上には、中朝国境で頻繁に移動する中国軍及び武装警察部隊の映像が流れています。
しかし軍が意図して映像を流す場合もあり、真偽を証明する手段がない、とKDRは述べています。

KDR 東京特電：

今年になって、北朝鮮の核実験及び弾道ミサイル試験が繰り返され、中朝国境の情勢が緊迫、ネット上には中国軍及び武装警察部隊が中朝国境地区を頻繁に移動する映像が出現した。**KDR**はこの映像が本物かどうか確認する手段を持たないが、かつて2005年前後に、中国軍が北朝鮮難民の流入防止のための演習を頻繁に行ったことについて説明したことがある。それは北朝鮮の政治的動乱時、流入難民に対する一連の国境封鎖演習であった。

今年、中朝国境が緊迫状態になった時、一部の中国メディアは次のように報道した：「解放軍北部戦区は、突発事態等々に対応するため”四級戦備状態”にある、と。

中国軍は、平時、四級戦備状態にある。したがってどのような経緯でそうなったのか、各種問題を含めはっきりさせる必要がある。以下は中国軍が三級戦備に入るための各種条件であり、**KDR**はすでに類似のニュースを報道している。

幹部の呼集方法及び呼集時機

中国軍は：国外で重大突発事件が発生した場合、或いは周辺地区に重大な異常事態が出現した場合、中国に対し直接軍事的脅威を構成する可能性があり、そのとき部隊は三級戦備状態に入り、幹部の呼集を準備し、外出人員を呼び戻す。

情勢がさらに悪化し、中国に対しすでに直接軍事的脅威を構成した場合、参戦単位は上級部隊から事前の命令を受け、そのとき部隊は二級戦備状態に入り、迅速に所属幹部を呼集する。

帰隊に要する時間は、帰隊命令を受領後、幹部の所在位置と部隊までの距離で計算される。

1. 100KM 以内に所在する場合、3 時間以内に帰隊すること。
 2. 100KM から 300KM に所在する場合、6 時間以内に帰隊すること。
 3. 300KM から 500KM に所在する場合、12 時間以内に帰隊すること。
 4. 500KM から 1000KM に所在する場合、24 時間以内に帰隊すること。
 5. 1000KM から 2000KM に所在する場合、36 時間以内に帰隊すること。
 6. 2000KM 以遠に所在する場合、48 時間以内に帰隊すること。
- 一級戦備状態に入ったときは、部隊は完全戦闘状態に入り、武器を支給する。

四級から一級までは、逐一昇級することも一挙に昇級することも可能である。したがって今年に入ってから、北朝鮮の一連の軍事挑発、その上米韓の反応が加わり、中国軍北部戦区は三級戦備状態に入った可能性が極めて高い。状況は、中国軍が三級戦備状態に入る必要条件に符合している。

以上